

令和6年度沖縄総合事務局開発建設部コンプライアンス・ アドバイザー委員会（第2回）の議事概要について

1. 日 時：令和7年3月5日（水） 14時00分～15時30分
2. 場 所：沖縄総合事務局4階 事業審査室
3. 委 員：委員 石田 むつみ （公認会計士）
委員 小濱 武 （沖縄国際大学准教授）
4. 議 事：・令和6年度コンプライアンス推進計画の実施結果
・令和7年度コンプライアンス推進計画（案）
5. 各委員からの主なご意見等
 - 国家公務員ハラスメント防止週間にあたり、職員に視聴案内のあるハラスメント防止啓発 YouTube 動画は外部に公開され、一般の方でも見ることができるのか。

→一部の YouTube 動画については人事院国家公務員倫理審査会のHPで公開されており、一般の方も見ることができる。
 - 令和7年度開発建設部コンプライアンス推進計画における新たな取り組みとして、イントラネットを活用した自主学習支援があるが、受け手の意欲の有無によって効果が違ってくる。
効果測定が課題になるので、学習の効果が発揮できるような工夫をしてはどうか。

→自主学習は、職務上の都合で研修に参加できなかつたり、改めて振り返りたいという職員の利用を想定している。
イントラネットの中でフォーム等を用いて利用者の意見を拾い上げる工夫をしていく。
 - コンプライアンス・インストラクターの役割について教えてほしい。
また、その割合・密度について教えてほしい。

→コンプライアンス指導員（本局課長、事務所長等）をサポートする役割を担っている。
毎年度20名程度（本局課長補佐、事務所課長等）が研修を受講しインストラクターに認定され、現在140名程度のインストラクターがおり、職員2～3名に対しインストラクターが1名程度の割合でいる。
 - 新しい取り組みを導入し、やることが年々増えてくると、研修等を受ける側の負担も考えていく必要があるので、スクラップアンドビルド・再編成も考えていった方がいい。

→受講する職員の負担を減らす観点から、研修や講習会については対面以外にオンラインや録画配信の併用を行う等の工夫をしている。
 - コンプライアンスの取り組みについて、全国の他の組織からの情報収集や横の繋がりがあれば教えてほしい。

→毎年度、全地方整備局等の担当官が参加するコンプライアンス関係の会議があり、その場で各地方整備局等の取り組みを共有している。
更に、コンプライアンス推進計画策定にあたっては他地方整備局等の事例を参考にしたり、適宜情報収集や連携を図っている。

- コンプライアンスについても、管理職員にとっての見方と受けている職員の方々の意識や倫理観に違いがあるかもしれない。
自分たちにとってはやりすぎかもしれないと思っていることが、今の20代にとっては当たり前だと思っているかもしれないので、そういった意識や視点を入れていく方がいい。

→そのような意識や視点のもと、今後もしっかり取り組んでいく。

- 開発建設部がやっている仕事の中で懸念点や問題点が出てきた時に、みんなが声を上げやすい組織になっているかが大事である。
仕事の中で懸念点がある場合には、「ここちょっと大丈夫なのかな？」と意見が言えるような組織になっていけば、小さい気づきを集めていって、問題は早い段階で潰していける。
コンプライアンスの良い組織や環境を作っている中であれば、このようなところでも効果が上がってくるのでは。

→風通しの良い職場になれば、コンプライアンスや業務の円滑化に繋がるので、日常から部下が上司に相談しやすい体制を意識して仕事を行っている。

- 今はコンプライアンスの幅が広がっており、ワークライフバランスの取り組みもされている。
女性の活躍について、現状の課題や考えは如何。

→組織として女性の活躍を意識・期待しており、女性職員の採用も増えてきている。
今後もワークライフバランス推進を意識して取り組んでいく。

以上